

三十年戦争開始から400年  
国際法の父グロティウス

吉祥女子中学・高等学校教諭 松山健介

## はじめに

三十年戦争開始から今年で400年になる。三十年戦争は多くの民間人が犠牲となった戦争であり、その悲惨さに直面したフーゴー＝グロティウスは、国際法によって戦争を抑止することや、残虐行為の緩和を訴えた。一方で、現代の戦争においてその悲惨さは増す一方であり、犠牲者は増え続けている。こうした状況において、グロティウスの思想を問い直すことには大いに意義があるはずである。そこで、グロティウスが提唱した国際法の理念が現在どのような形で継承されているのかということテーマとした授業実践を紹介したい。なお、Q1～5は生徒からの質問を表している。

## 授業の展開

**導入** 次のうち、国際的な戦争時に禁止されていることを選びなさい。

①無差別な攻撃 ②略奪行為 ③兵糧攻め

正解はすべてです。①戦時においては、軍事施設などの軍事目標だけを攻撃の対象として認め、それ以外のものに対する攻撃を禁止しています(ジュネーヴ諸条約第1追加議定書51条)。②略奪行為は禁止です。占領地の住民から物資を徴発することは認められていますが、対価を支払わなけ

ればなりません(ジュネーヴ諸条約第2追加議定書4条)。③戦争の方法として文民を飢餓の状態におくことは、目的を問わず禁止されています(ジュネーヴ諸条約第1追加議定書54条)。

**Q1** なぜこのようなルールができたのですか？

三十年戦争の際、戦争と直接かかわらない民間人が多数犠牲になり、ドイツの人口は1800万人から700万人になってしまったといわれます。三十年戦争では、戦争のときだけお金で雇われる傭兵が活躍しました。この傭兵たちがときおり暴走し、近隣の農村を略奪してまわりました。この略奪ぶりがあまりにもひどかったため、傭兵隊長はときおり残虐な行為を行った部下たちを処刑して規律を正さなければならぬほどでした。『最新世界史図説タペストリー 十六訂版』p.169にあるカラーの絵(図1)を見ると、盗賊化したために処刑される傭兵たちのようすがわかります。こうした戦争の惨禍から、戦時に共通して守るべきルールが求められるようになりました。

**Q2** こうしたルールは誰が考えたのですか？

オランダのグロティウスです。グロティウスは「国際法の父」とよばれています。幼いころから「神童」とよばれ、オランダの名門ライデン大学に11歳で入学しました。また、15歳のときにオランダの使節団の一員としてフランス国王アンリ4世に謁見した際に、その理路整然とした受け答えに感銘を受けた王から「オランダの奇跡だ」と評されるほどでした。その後、16歳で弁護士、24歳で検察官、30歳でロッテルダム市の市長に選ばれて政治家としてキャリアを積んでいきます。

一方で、挫折も経験しています。35歳のときに政争に巻き込まれて逮捕され、その後裁判にかけて「終身禁固刑」、「全財産没収」の判決が下りました。この判決により幽閉されたのですが、妻の発案により大きな本箱のなかに身を隠し、な

図1 『最新世界史図説タペストリー 十六訂版』p.169 ①兵士の処刑(写真:PPS通信社)

んと脱獄することに成功しているのです。

### Q3 波乱万丈ですね。グロティウスはどうして国際法を提唱するにいたったのですか？

図2 『最新世界史図説タペストリー 十六訂版』p.169  
「③グロティウス」(写真:ユニフォトプレス)

グロティウスが生きた時代は、数多くの戦争が起こっていました。グロ

ティウスはフランスへの亡命後、ルイ13世の保護を受け、執筆活動に専念していたのですが、とくにドイツでの三十年戦争の悲惨さを聞き、42歳のときに『戦争と平和の法』を執筆しました。この著作のなかで提唱した戦争の開始時にも遂行中にも共通法が存在するという考え方が、最初に紹介したジュネーヴ条約の理念に大きな影響を与えたのです。

グロティウスは、最後はスウェーデンの駐仏大使としてそのキャリアを終えました。スウェーデンで働くことになったのは、国王グスタフ＝アドルフの推薦によるものでした。グスタフ＝アドルフは『戦争と平和の法』をつねに携行するほど、グロティウスに惚れ込んでいました。グスタフ＝アドルフは三十年戦争の最中に亡くなり、その遺言によってスウェーデンに雇用されることになりました。そして1645年に62歳で亡くなりました。

### Q4 グロティウスが提唱した国際法によって、戦争の犠牲者は減っているのですか？

三十年戦争は、同時代のなかでは民間人の犠牲者の割合が多い戦争でしたが、20世紀の戦争をみても、例えば第一次世界大戦では5%、第二次世界大戦では50%、朝鮮戦争では85%、ベトナム戦争では95%というように、現代の戦争においても犠牲者に占める民間人の割合は増え続けています。

国内法の場合は、法律に違反するとその国の警察から取り締まりを受けますが、国際法はいつでも取り締まりが行われるわけではないため、拘束力が弱いことが原因です。公平に制裁を行うことができる機関の存在が不可欠であることは、グロティウス自身も考えていて、国際紛争を公平に解決するための強制力をもつ機関の創設を提唱して

いました。その理念を継承している機関の代表が、現在の国際連合や、国際司法裁判所です。

ただ、国際連合は紛争処理の中心機関である安全保障理事会において、常任理事国が拒否権をもっているため、常任理事国の利害がからんでくると強制力を執行することができません。また、国際司法裁判所は裁判を開くためには紛争当事国双方の同意が必要なため、強制力は十分とはいえません。

### Q5 グロティウスの国際法の理念を生かしていくためにはどうすればよいのでしょうか？

旧ユーゴスラヴィア紛争や、ルワンダ内戦において、虐殺や組織的な強姦など、重大な人権侵害を行った戦犯に対しては、裁判が行われて刑罰が科されています。また、2002年に設立された国際刑事裁判所（ICC）もグロティウスの理念を継承している機関の一つですが、集団的な殺害（ジェノサイド）、人道に対する罪、戦争犯罪、侵略に対する罪などを裁く裁判所として活動しています。道のりは遠いかもかもしれませんが、こうしたしくみがいつでも公平に機能するようになれば、戦争を抑止し、戦争の犠牲者を抑制していけるようになっていくでしょうね。

## まとめ

ドイツ三十年戦争を経て、ウェストファリア条約によって主権国家体制が成立した。主権国家体制は、近年のグローバリゼーションの進展によって崩壊に向かうようにみえた。しかし現在、世界的な格差拡大などさまざまな要因から反グローバリズムの動きが強まり、主権国家体制に回帰する動きが進んでいる。ナショナリズムが新たな戦争を生み出す危険性が高まっている今こそ、グロティウスの理念に立ち返って戦争を抑止する道を模索していくべきである。三十年戦争から400年。グロティウスの業績を回顧し、国際法を遵守していく必要性を訴えて、授業の結びとした。

### 【参考文献】

- ・柳原正治『グロティウス』（清水書院、2014年）
- ・松隈清『グロチウスとその時代』（九州大学出版会、1985年）
- ・外務省ホームページ「ジュネーヴ諸条約及び追加議定書」